

3. 30～50代夫婦の貯蓄習慣

(1) 定期的に一定額の貯蓄ができているのは4分の1の世帯

本調査では、各世帯で収入から一定の額を貯蓄しているかを尋ねている(詳細は、下記参照)。ここでは、直近4年間(2012年～2015年)の調査とも配偶者のいる女性の回答についてまとめた。

4年すべての年で「(一定の額を)定期的に貯蓄している」と回答した人は全体の26%であった。また4年とも「ほぼ貯蓄できていない」と回答した人は12%である。

図表5の「定額貯蓄が以前できていた」とは、4年の間に一度は一定額の定期的貯蓄をしたことがあるものの、最後の2015年には定額貯蓄ができなかったという意味であり、その割合は18%にのぼっていた。一定額の貯蓄を毎年続けることの難しさが、この結果からもうかがえる。

図表5 貯蓄習慣の現状

	4年とも 定額貯蓄	定額貯蓄が 以前できて いた	4年とも 余ったお金を 貯蓄	4年とも 貯蓄 できていない	その他	計
構成比	26%	18%	9%	12%	36%	100%(970)
貯蓄月額・ 中央値 (千円、2015)	85	50	58	27	50	50

(注)貯蓄額には、生命保険料などの保険料の支払いも含まれている

対象：2015年10月に32歳から55歳の有配偶女性、970人

期間：2012年から2015年の4年間

質問文：

「お宅では、収入から一定の額を貯蓄するようにしていますか。」

- 1 定期的に貯蓄するようにしている
- 2 計画は立てていないが、余ったお金を貯蓄にまわしている
- 3 貯蓄にまわすことはほぼできていない
- 4 特に貯蓄しようと思わない

3. 30～50代夫婦の貯蓄習慣

(2) 家計を一度チェックしてみるだけでも貯蓄に効果的

貯蓄を定期的に続ける工夫の1つとして、家計簿をつけ日々の収支をチェックすることがあげられる。図表6は、(1)と同様に直近4年間(2012年～2015年)の調査結果から、家計簿の記帳状況と貯蓄習慣の関係を示したものである。

4年とも定期的に家計簿をつけていた世帯の場合、その中で4年とも一定額の貯蓄ができていた割合は34%であり、そこまで家計簿をつけていなかった世帯よりも高くなっている。この結果から、定期的かつ継続して家計簿をつけることは、何らかの形で貯蓄をもたらす効果を持っていることがうかがえる。

ただし、4年間定期的に家計簿をつけ続けていた世帯は、全体の13%と少数にとどまっており、家計簿をつけ続けることはやはり簡単ではないようである(図表7)。

一方、これまでに一度も家計簿をつけたことがない世帯の場合、4年とも一定額の貯蓄ができていた割合は、17%と最も低くなっている。最初から定期的に家計簿をつけ続けることは難しいかもしれないが、何らかの機会に家計簿をつけてみて家計の状況をチェックするだけでも、貯蓄の実現に対して一定の効果がありそうである。

図表6 家計簿の記帳状況と貯蓄習慣

	4年とも 定額貯蓄	定額貯蓄が 以前できて いた	4年とも 余ったお金を 貯蓄	4年とも 貯蓄 できていない	その他	計
4年とも定期的につけていた	34%	21%	8%	11%	26%	100%
定期的につけていたが、今はつけていない	27%	20%	8%	7%	37%	100%
調査以前につけたことがある	25%	17%	11%	13%	35%	100%
これまで一度もつけたことがない	17%	19%	9%	14%	41%	100%
その他	24%	18%	8%	12%	38%	100%

図表7 家計簿の記帳状況

4年とも定期的につけていた	定期的につけていたが、今はつけていない	調査以前につけたことがある	これまで一度もつけたことがない	その他	計
13%	10%	26%	13%	39%	100%(970)

3. 30～50代夫婦の貯蓄習慣

(3) 共働きは貯蓄の面でやっぱり有利？

共働き世帯と専業主婦世帯で、貯蓄習慣に違いはあるのだろうか。(1)(2)と同様に直近4年間(2012年～2015年)の調査結果から、図表8は貯蓄習慣の状況を、図表9はそれぞれの場合の月額貯蓄額(中央値)をまとめている。

4年とも一定額の貯蓄ができていた世帯の割合に注目すると、共働き世帯では29%だったのに対して、専業主婦世帯では19%であり、両者の間には10ポイントの差があった。月あたりの貯蓄額でも、両者の間には3万円弱の差がある。共働き世帯は収入を複数から得ているため、一定額の貯蓄を相対的に確保しやすいことがうかがえる。ただし、4年とも一定額の貯蓄ができていた割合自体は、共働き世帯であっても高いとはいえず、多数派の世帯は継続的な定額貯蓄ができていないといえる。

また、「4年とも貯蓄できていない」等の割合は、共働き世帯と専業主婦世帯の間で大きな差が開いてはいない。貯蓄額の面でも、「定額貯蓄が以前できていた」世帯や「4年とも余ったお金を貯蓄」していた世帯では、共働き世帯と専業主婦世帯の間に「4年とも定額貯蓄」の世帯ほどの大きな差はみられない。

図表8 妻の就業状態別 貯蓄習慣

	4年とも 定額貯蓄	定額貯蓄が 以前できて いた	4年とも 余ったお金を 貯蓄	4年とも 貯蓄 できていない	その他	計
共働き	29%	17%	9%	11%	34%	100%(694)
専業主婦	19%	19%	8%	14%	39%	100%(257)

図表9 妻の就業状態別 月あたりの貯蓄額(中央値、千円、2015年)

	4年とも 定額貯蓄	定額貯蓄が 以前できて いた	4年とも 余ったお金を 貯蓄	4年とも 貯蓄 できていない	その他	計
共働き	90	55	56	30	50	57
専業主婦	63	40	60	8	42	45

3. 30～50代夫婦の貯蓄習慣

(4) 働き方にかかわらず定期的な家計簿記帳には貯蓄に効果的

共働き世帯と専業主婦世帯ごとに家計簿の記帳状況と貯蓄行動の関連を調べた。家計簿を定期的につけていた割合は専業主婦世帯の方が高くなっている(図表10)。

共働き世帯、専業主婦世帯とも、定期的にか家計簿を記帳していた世帯では、4年間定期的に貯蓄できている割合が高く、それぞれ36%、35%であった。共働き世帯をみると、これまで家計簿をつけたことがない世帯では、定期的にか貯蓄している割合が16%と低くなっている(図表11)。

専業主婦世帯においては4年間継続して記帳していた世帯と、それ以外の世帯では定期的貯蓄をする割合に差が大きく、それ以外の世帯で定期的な貯蓄をしている割合は1割台にとどまっている。専業主婦世帯において、家計簿を記帳し続けている効果がより表れている。

図表10 妻の就業状態別 家計簿の記帳状況

	4年とも定期的につけていた	定期的につけていたが、今はつけていない	4年とも時々つけていた	調査以前につけたことがある	これまで一度もつけない	その他	計
共働き世帯	11%	11%	3%	25%	14%	36%	100%
専業主婦世帯	18%	7%	2%	26%	11%	36%	100%

図表11 妻の就業状態別 家計簿の記帳状況と貯蓄習慣

		4年とも定額貯蓄	定額貯蓄が以前できていた	4年とも余ったお金を貯蓄	4年とも貯蓄できていない	その他	計
共働き	4年とも定期的につけていた	36%	17%	11%	13%	24%	100%
	定期的につけていたが、今はつけていない	30%	17%	9%	5%	38%	100%
	調査以前につけたことがある	29%	17%	10%	12%	32%	100%
	これまで一度もつけない	16%	19%	12%	14%	40%	100%
	その他	31%	17%	7%	10%	35%	100%
専業主婦	4年とも定期的につけていた	35%	26%	4%	9%	26%	100%
	定期的につけていたが、今はつけていない	17%	28%	6%	17%	33%	100%
	調査以前につけたことがある	13%	15%	13%	16%	42%	100%
	これまで一度もつけない	17%	21%	3%	17%	41%	100%
	その他	17%	18%	8%	14%	42%	100%